

現役をいったん退いたシニアが地元で無理なく働ける場所を探るのを手助けする自治体の「生涯現役窓口」の活動が目立つ。就労先だけでなく、ボランティアや趣味、健康づくりについてもまとめて情報が得られるワンストップサービスを展開するところもある。活動の現場を訪ねてみた。

9月上旬、千葉県柏市の複合施設で「学んで働く生涯現役 福祉のお仕事セミナー」が開かれた。講師の二瓶陽子さんは「週に2〜3日、1日当たり4〜5時間の就労が多い。ドライヤーで髪を乾かすなど資格不要の仕事もある」。28人の参加者に福祉分野の仕事やそのやりがいを語った。

セミナーは柏市生涯現役促進協議会が主催。同協議会は市や地域の関係団体で構成。JR柏駅近くのビルに置いた「かしわ生涯現役窓口」を通じ、主に55歳以上の市民に地元求人、ボランティアや学習活動、健康づくりに関する情報をワンストップで提供している。

協議会の白石博事業統括員によると、セミナーや窓口相談の結果、2016年10月から今年3月までの間に195人のシニアが仕事に就いた。その他の活動に

セカンドステージ

「生涯現役」自治体が支援

働く場探し 専用窓口でサポート



集まったシニアを前に福祉系職場の説明をする二瓶さん(9月、千葉県柏市内)



クリエテック建設で週2日働く星野さん(左)と上司の竹内さん(千葉県柏市)

■地元で無理なく ■生きがいの場に

参加したのも478人以上という。星野孝治さん(70)は19年8月から市内のクリエテック建設でパートタイマーとして週2日働く。石油化学業界にいて68歳で一度引退していた。しかし「仕事

を離れると物の考え方や行動範囲 視野が狭まる」と実感。未経験の分野で人とふれあう機会をもちたいと考え、偶然知った協議会での仕事をみつけた。材料や資材の受け入れ、顧客の要望を社内ネット経由で営業担当に知らせるなど総務の仕事を担当している。上司で総務部長の山田幸敏さん(38)は「第一印象からポジティブ。年を重ねると頑固さが出る人もいるが、星野さんとは意思疎通がとて容易」と評価する。鈴木一功社長(40)も「基本能力の高い人。業務見直しでも自分から新提案を出してくれて」と満足そうだった。

窓口で相談する動機は報酬を得るためというのが目立つが、生きがいの場を求める声も多い。「孫に小遣いをやりたい」といった気持ちと、社会と関わりたい思いとが混じり合う。就労にとどまらず、ボランティアや趣味といった活動の情報も提供するほかこうしたニーズに対応するための大阪府豊中市では「とよなか生涯現役サポートセンター」が就労支援に軸足を置く形で活動中。「シニアのためのおしごとカフェ」で地元の中小企業とシニアを結びつけるほか、タスキキなど特定企業の名を冠した仕事説明会も開く。

国も働く意欲のあるシニアが経験を生かして働ける場づくりを後押しし、厚生労働省は「生涯現役促進地域連携事業」を展開する。実施団体として委託費を受ける自治体の協議会は全国で現在66。柏市や豊中市も選ばれている。同省高齢者雇用対策課の恒石拓哉係長によると、この事業を活用して2019年度に就労まで結びついたシニアは全国

厚労省も再就労を後押し

で6600人。介護関係業界が目立つという。もともと深刻になっていた労働力不足に対応し、退職したシニアに活躍してもらう狙いがあった。ただ足元では新型コロナウイルスの感染拡大で雇用環境が悪化している。今後就労先が細り始める懸念はあるが、せつかく出始めた「70歳現役」の芽を枯らさない工夫が必要になる。

鬼婆

磨 赤兒

一つに「情念の類型」というのがあり。様々な感情のピークの状態を捕獲し鑄型にするのだ。それを壊すことなく大事な作品としての分量を。例えば「怒

人生後半 はじめまして



岸本 葉子

する。それらを自転車のかごで運搬。徒歩でも3分だが、腕がちぎれそうになる。はじめから週1と決めたわけではない。魚はストックしにくいので、週の半ばにもう

1回行くことが多かった。その仕事のキリが悪い日が続いた週、あるものでやりくりしていたら、結果的に行きやすくなり、それはそれで面倒がなく、味をしめてしまったのだ。

食材使い

スーパーへ行くのが週1回に定着している。昔アメリカ映画で、巨大なるカートに肉の塊や冷凍ピザや牛乳パック(ガロンという単位をこのとき知った)を山と積んでいるのを見て「車社会の人はこちらのほうが買いやすいのか」と驚いたものだが、頻度は同じになった。カートの中身はまるで違って、魚、野菜、豆腐、乾物などザ・和食。果物や菓子などの嗜好品をおまけ的にプラス



イラスト 平野 恵理子

週の後半には品薄感が出てくるが、工夫で乗り切る。魚が尽きたら「これもたんぱく質」と、蒸し大豆と乾物のアミエビを甘辛く煎りつけた。非常に食事にストックしていた缶詰の

高知の室戸キンメ丼

食紀行

高知県東部に位置する港町の室戸市。市内の飲食店が街おこしの一環で8年前に考案したのが「室戸キンメ丼」だ。キンメダイを照り焼きにした



「料亭 花月」では最後にだし汁を注ぎ、お茶漬けのようにして食べる
室戸のキンメは大ぶり鮮度抜群

照り焼きも刺

なせるの禍いだ。なんとも不感な女性だ。この事実を中学生と

キンメダイを煮かき決めた。身が少し文、。「最初毎